

オミクロン

新変異株 世界が警戒

WHO「懸念される株」指定

世界保健機関（WHO）は26日、南アフリカで見つかった新型コロナウイルスの変異株を、デルタ株などと並んで最も警戒度が高い「懸念される変異株」（VOC）に指定し、「オミクロン株」と命名した。欧米など各国は相次いで水際対策強化に動いており、世界同時株安の様相になるなど経済への影響も広がっている。

▼3面Ⅱ株・原油急落、7面Ⅱ南ア反発
WHOはオミクロン株について、数多くの変異があり、うち一部が懸念されると指摘。デルタ株やベータ株といったVOC指定のほかの四つの変異株より、再感染のリスクが高いとみられるという。

WHOは各国に対し、監視態勢の強化や、最初の感染症例やクラスター（感染者集団）が発生した場合の報告などを求めた。

新型コロナウイルスの変異株を巡り、WHOは公衆衛生面での警戒が必要な度合いが強い順に、感染力が高かったり、毒性が強かったりするVOC、これに準じる「注目すべき変異株」（VOI）などを定め、各国に注意を促している。

渡航制限を強化

オミクロン株は南アのほか隣国ボツワナ、香港、ベルギー、イスラエル、英国などでも見つかっているといる。南アや周辺国などからの渡航を制限する国が相次いでおり、バイデン米大統領は26日、南アなど8カ国からの入国を29日から制限すると発表。欧州連合（EU）も26日の緊急協議で、アフリカ南部7カ国からの域内への渡航を制限する方針で一致した。

バイデン氏は声明で、今回の入国制限を「（変異株について）さらなる情報を得られるまでの予防措置」と説明。米政府は今月8日

から、ワクチン接種を条件に外国人の入国制限を緩和したばかりだった。

ダウ1千ドル下落

世界経済の先行きへの不安も広がっている。投資家が株を売り急いで世界同時株安の様相となり、26日の米ニューヨーク株式市場で

は一時、ダウ工業株平均が1千ドル超値下がり。終値は前営業日より905.04ドル安い3万4899.34ドルで、下げ幅は今年最大だ。

原油も売られている。指標となる「米産WTI原油」の先物価格は一時1ドル67セント、約3カ月ぶりの安値水準となった。